

今回の『THE★看護』の担当は、4月より外来治療室へ異動となった北原です。

令和になり1年が経ちました。世界的に新型コロナウイルスによる被害が危ぶまれる中、皆様の生活も大きく変化しストレスが蓄積されていないでしょうか。

ストレスはがん細胞にとっては栄養となるので、魚釣り等で適度にストレス発散をしましょう。

がんの発生

がんは正常細胞が**何らかの原因**で、障害を持ったまま細胞分裂を繰り返すことによるもので、毎日体のどこかで発生しています。ただ、通常はがん抑制遺伝子というものがそれを毎回阻止します。しかし、稀にがん抑制遺伝子が働かなくなる事があります。そうするとコピーミス阻止出来ず、異常な細胞が増殖してしまうというものです。

何らかの原因とは

生活習慣に潜んでいます。
食事・紫外線・ウイルス・炎症・薬剤・タバコ・アルコール・自動車の排気ガス・アスベスト吸入・繰り返される物理的的刺激等が、その原因となりえます。

抗がん剤治療

10年近く認定看護師として抗がん剤治療に携わっていますが、治療効果の薄い方、副作用で辛い思いをされる方、様々な状況の方が沢山おられます。本当に抗がん剤治療をすべきだったのか、しないほうが有意義な最期を迎えられたのではないかと等ネガティブに考えることもあります。そんな中関わっていた患者様で、頑張っって3年間2週間毎の治療を続けてこられ、この3月に抗がん剤治療だけで進行性のがんが完全に治癒された方がおられました。

我々医療者にも感謝の言葉を頂きました。抗がん剤治療で治癒するがんは一部ですが、今回のことはスタッフ皆が希望を頂きましたし、モチベーションの向上に繋がったと思います。

中心静脈リザーバー(ポート)

抹消血管確保の困難例や中心静脈栄養・がん化学療法を行う方の**静脈**へのアクセスとして皮下に造設します。カテーテルが直接**静脈**に入っているため針の穿刺や抜針は看護師が行えます。勿論当院でも看護師が管理を行います。ポートの穿刺部はシリコン素材で、耐用穿刺回数は専用の穿刺針を用いて、1500~2000回程度のため通常は半永久的に使用可能です。

ポート使用の注意点

ポートにおけるワンショットの投薬に関して！
シリンジは**10ml**以上を使用して下さい。5ml等小さなものを使うと、瞬間的な内圧上昇によりカテーテル破損のリスクが高まります。また閉塞防止のため抜針前には必ず生理食塩水かヘパリン生食のワンショットが必要です。

ポートの閉塞

ポートから採血や点滴等行う際に、血液逆流や滴下・注入が止まってしまう事があります。
穿刺部の異常や血栓・フィブリンによる閉塞や鎖骨と第一肋骨に挟まれる現象(**カテーテルピンチオフ**)等を考えます。ピンチオフの場合は体位変換で解除される事が多いですが、体位変換後も閉塞が続く場合は再穿刺し、生食で開通確認をして下さい。なおも開通しない場合は、閉塞も考えられる為、ヘパリンやウロキナーゼ注入を考慮する必要があり、主治医及び放射線科医師に相談が必要です。



出世魚

モジャコ→ヤズ→ハマチ→メジロ→ブリ(獅)
ネイリ→カンパチ(間入)→ソジ
ヨコ→メジ→マグロ(鰯)
セイゴ→フッコ→スズキ(鱈)
サゴシ→ヤナギ→サワラ(鰯)
呼び名の変わる魚(アレルギー登録に困る魚)
メジカ=マルソウダ(夏は新子が人気)
スマ=ヒラソウダorイトガツオ(オボソ)

もうすぐ外来治療室が広くなります。

当初は本年度より増床予定でしたが、新型コロナウイルスの関係で、現在は保留の状態となっております。感染状況が完全に落ち着き次第拡張増床手続きに入り、患者様をお待たせする時間も削減できるかと考えております。